

片倉高校野球部へのご招待 (片倉高校野球部への入部を考えている中学生・保護者の皆様へ)

片倉高校野球部顧問の飯田一史と申します。6月に入り、中学生・保護者の皆様におかれましては進路選択(志望校選び)について、いよいよ本格的に動き出す忙しい時期かと思えます。片倉高校野球部では今年も8月、10月、11月と年3回の体験入部を予定しておりますが、それに先立ちまして片倉野球部がどのような指導方針で生徒たちに向き合っているのか、監督・宮本秀樹の考えを紹介させていただくことで、皆様の進路選択の一助にいただければ幸いです。以下

片倉高校野球部監督の宮本秀樹です。私は今年3月で42年間の都立高校勤務を終えて、4月より部活動指導員として野球部監督を続けています。

高校入学後、野球部で活躍したいと思っている中学生や保護者の皆様に、今、私自身が考えていることなどをお示し、進路選択の上での参考にさせていただきたいと思っています。

私は社会、世界史の教員として、都立高校で野津田6年、東大和10年、府中工業11年、そして片倉15年の合計42年勤務し、その間ずっと高校野球の指導者として(35年間は監督として)グラウンドで選手と共に活動することができました。

2校目、私が着任した当時の東大和高校は、2度の夏の大会西東京準優勝の実績を残していて、100名を超える部員たちが本気で甲子園を目指し、周囲からは「都立の星」と言われていました。そこで『甲子園の心を求めて』の著者である佐藤道輔先生と一緒に指導するという機会に恵まれました。この本は、当時若手指導者のバイブル的な本であり、先生の唱える「全員野球」の考えは、多くの指導者に影響与えていました。

その佐藤道輔先生の後を引き継ぎ、それまで何の実績も実力もない私が東大和の監督をすることになりました。今から考えれば監督としての5年間は恥ずかしいことばかり。当時の選手たちには本当に迷惑をかけたと思っています。しかし、この間の先生からの教え、厳しく叱られた事、たまに褒められたこと、そして選手とのやりとりは私にとっては宝物のような貴重な経験になっています。それが今日までこんなに長く高校野球の現場で指導に当たってこられた基礎になっています。次の府中工業では、東大和の卒業生で大学生だった飯田一史君の協力でいつの日か東大和のようなチームにしたいと思い、一からのチーム作りに励みました。全員での足を揃えたランニングスタイル。上級生が率先して行うグラウンド整備。スパイクを履き替えて準備ができた人間から1番遠くの場所に走って行って、キャッチボールをするという「全員野球」の考え方を毎日選手に話しました。

東大和のコピーとも言われました。バックネットの位置を変え、グラウンド環境の整備をし、公式戦の会場校になったこと。次第に部員が増え、70名を超えるチームになったこと。高校から投手を始めた高江洲拓哉が中日ドラゴンズのドラフト指名を受け入団したこと。秋の大会でのブロック優勝(都ベスト24)3回、うち1度はベスト8進出など多くの経験をさせてもらいました。

そして片倉では着任2年目に福島靖監督の後を受け監督となりました。2012年夏シード校として登場し、東海大菅生、東亜学園等を破っての西東京ベスト4。初めての神宮球場で、はつらつとプレイする選手たちの笑顔は当時話題になりました。また2018年夏は国学院久我山、都立日野を破

った後、準決勝で王者日大三高を終盤まで追い詰めながら、代打逆転満塁ホームラン打たれ、悔しい逆転負け。甲子園まであと1歩とまでは言いませんが、少したけ甲子園を意識するところまで来た実感しました。もちろん、他の年もこれと同様、またはそれ以上の力を持つ年もありましたが、公式戦で勝ち続けることは難しく、最近では今一つ結果につながっていないのが現状です。(14年間でベスト16以上8回)。

2018年、日本高野連から育成功労賞をいただきましたが、それに恥じない指導者なのか、常に自問しています。

府中工業でも、片倉でもずっと順調に来たわけではありません。あるべきチーム像、あるべき指導について、私自身の心の揺れ、迷いが影響し、選手に申し訳ないことをしたこともあります。もっと良いアドバイスをしていたら、もっと大きく成長した選手がいたのではないかと。退部した部員でも辞めさせずに済んだのではと思ひ出すことがあります。チームの指導、技術指導など今でも勉強を続けていますが、今だからこそ分かったことがたくさんあります。過去のあの選手たちに、もっとこういった言い方をすることができればと後悔するとともに、申し訳ない気持ちになることもあります。

だから、私自身も片倉のチームも毎年毎年進化し続けています。いつも今年のチームが過去最高(実力だけでなく、チームの雰囲気なども含めて)と思っています。定年を迎えた今、その気持ちがますます強くなっています。今のチームは、新チーム発足時はどうなることかと思ったチームですが、立派に成長してくれています。私のその時々での言葉を真剣に理解しようとしてくれています。膝が痛くベンチで座ることも多くなり、外野ノックも飛ばなくなりましたが、過去の多くの失敗、経験を財産に、そして常に新しい技術を学びながら、監督を続けていく所存です。

大学時代、府中工業と一緒に指導に当たってくれていた飯田一史(社会)が、今度は教員として私と一緒に指導に当たってくれています。昨年まで一緒に指導してくれていた舟山先生(元日本ハムファイターズ投手)のしてくれた技術指導、馬場先生の打ち続けてくれた内野ノック、選手の先頭に立って動いてくれたトレーニング、グラウンド整備などは今の片倉を作ってくれました(今年4月2人とも他校に異動)。吉岡先生に加え、今年より増島先生(数学)、林先生(社会)を新たな顧問に迎え、指導スタッフは万全です。トレーニングは、かつての東大和のOBで、宮本とは20年以上のコンビを組む森下茂氏に加え、投手陣は4年前より藤崎氏の指導を受けています。選手を技術的にも、その他の面でも成長させる環境が整っていると思います。

ここ片倉で大きく成長してくれた選手はたくさんいます。「本気で野球やりたい選手は私立」というようなことを聞いたことがあります。そんなことを言わせないくらいの練習になっていると、自信を持って言えます。

どうか片倉の練習を見に来てください。私の話を、そして選手たちの話を聞いてください。その上で君たちが片倉を選んでくれたら、こんなに嬉しい事はありません。宮本の高校野球への思いは『「甲子園の心を求めて」と私』にまとめてみました(自費出版)。残部ありますので、野球部までお声掛けください。また野球部ホームページにて監督宮本の考えとして次回作原稿を順次発表しております(今後出版予定)ので、ご参考にしてください。

2023年6月8日
都立片倉高校野球部監督
宮本秀樹

